

異業種他分野各種施設見学会 「日本航空安全啓発センター」を視察



当会は、技術者の見聞を広め、日頃の業務に活かしていただくことを目的に異業種他分野各種施設見学会を実施しています。今年度は、12月17日(火)、2月18日(火)の2回にわたり会員技術者46名が羽田のJALメンテナンスセンター内施設「日本航空安全啓発センター」を視察しました。

この施設は、JALグループ社員の安全教育や安全意識の確立を目的として2006年4月に開設され

た研修施設で、一般にも公開されています。

施設内には、日本航空の主な事故の記録や1985年8月に起きたJAL123便の御巣鷹尾根墜落事故に関する展示物が多く公開されています。事故に至る経緯や推定飛行経路、直接原因とされる後部圧力隔壁を始めとする残存機体、またはブラックボックスと呼ばれるコックピットボイスレコーダーやデジタルフライトデータレコーダー、そして乗客・乗務員の遺品や機内で書かれたメモ(遺書)などが展示されていました。事故を真摯に受け止めるスタッフの姿勢、一つ一つ丁寧な言葉での解説は、我々参加者の心に強く投げかけるものがあり、事故の悲惨さ、遺族の無念さや悲しみは計り知れず、言葉に言いあらわせない気持ちとなりました。参加者はあらためて安全への取り組みや確認の大切さ、さらには命の尊さを考える時間となり、職場や現場での安全意識が高まる機会となったのではないのでしょうか。

「コンクリート維持管理技術講習会」を開催

2月4日(火)アットビジネスセンター東京駅八重洲通り604号室において「コンクリート維持管理技術講習会」を開催しました。

近年、インフラストラクチャーの老朽化が指摘され、それらの延命化・長寿命が急務とされており、劣化が表面化する前に予測する技術や劣化度に応じた延命化技術などが必要とされています。今回の講習では、1. コンクリート構造物の維持管理の実態、2. 鉄筋コンクリート構造物の劣化のメカニズム、3. コンクリート構造物の点検技術、4. コンクリート構造物の診断技術、5. コンクリート構造物の補修技術の5パートで構成されており、当初予定では、近未来コンクリート研究会 代表 十河 茂幸氏とコンクリートメンテナンス協会 技術委員長 江良 和徳氏の2名で講演を予定していましたが、都合により、江良氏が全

体を通して講演を行いました。

参加者は49名、うちアンケートに協力した48名全員が参考になったと回答し、わかりやすく具体的な内容でした。劣化診断、補修の選定等があらためて理解できたなど高い評価を受けました。

